

第7節 まとめ

1. 調査のまとめ

名和小谷遺跡では、後期旧石器時代、縄文時代中期・後期、弥生時代中期の遺物が出土し、第2遺構面で土坑を5基、第1遺構面で土坑2基を検出した。いずれの土坑からも遺物は出土していない。

後期旧石器時代の遺物としては、B区の攪乱土中から「瀬戸内技法」によって製作された「国府型ナイフ形石器」（図24）1点が出土している。瀬戸内地域との交流を示唆する資料として注目される。

縄文時代中期・後期、弥生時代中期の遺物は、主に包含層からの出土である。暗褐色土包含層（I層）、黒褐色土包含層（3層）、褐色土包含層（2層）をB区に確認した。いずれも、弥生時代中期後葉以降の堆積と考えられる。暗褐色土包含層からは、縄文時代中期・後期、弥生時代中期後葉の遺物が出土している。B区の最も地形の低い部分には、黒褐色土包含層（3層）と褐色土包含層（2層）が谷部に流れ込むように堆積している。3層は弥生時代中期中葉から後葉、2層からは弥生時代中期後葉の遺物が出土している。また、A区の表土中からは分銅形土製品（図26）1点が出土している。

2. 名和小谷遺跡出土の国府型ナイフ形石器について

（図24・25、表16、巻頭図版2、図版9）

（1）概要

B区攪乱土中より、「国府型ナイフ形石器」（S8）が1点出土している。「瀬戸内技法」で製作された典型的なもので、優品である。長さ7.8cm、幅2.0cm、最大厚1.2cm、重さ13.8gを測る。石材は黒曜石であり、蛍光X線分析の結果、隠岐島久見産と鑑定されている（第4章第6節参照）。この石器は「瀬戸内技法」の盛行期から判断して、後期旧石器時代後半期のものと考えられる。当遺跡から出土した旧石器時代の遺物は本資料のみである。剥片、砕片など石器製作過程を示す資料も出土していない。当遺跡の大半は削平され、耕作による攪乱も著しいため、いわゆるソフトローム層（II層）はほとんど残存しない。AT層（III層）下、V層までトレンチ調査により堆積状況の確認を行ったが、遺物は出土していない。

（2）特徴

素材には左側面にボジの石核底面を取り込んだ翼状剥片を使用している。分厚く甲高で、底面と主剥離面のなす角度が約70度と大きい。使用石材である黒曜石の特性から、一般的なサヌカイト製の翼状剥片よりも厚手の翼状剥片が作り出されたものと考えられる。刃潰し加工は右側縁に腹面側から背面側へ向けて施されている。下半部には細かい調整が加えられており、基部の整形を目的とした加工の可能性がある。先端部の左側縁と基部の右側縁には連続し

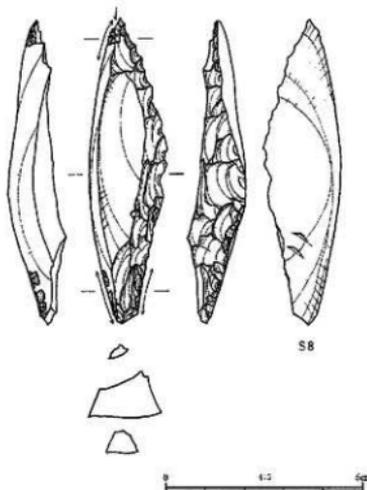


図24 ナイフ形石器実測図

た微細剥離痕が見られる。また先端には衝撃剥離痕と見られるファシット状の剥離がある。

(3) 瀬戸内地域との交流

瀬戸内地域の「瀬戸内技法」によって製作されたナイフ形石器は、サヌカイト製のものが一般的である。よって黒曜石製の本資料は、瀬戸内地域から直接当地に製品として持ち込まれたものではないと思われる。当遺跡からは石器製作過程を示す資料は見つかっていないが、「瀬戸内技法」で製作された典型的な優品であるため、「瀬戸内技法」の技術を持った旧石器人が、当時陸続きであった陸岐島の久見から産出された黒曜石を用いて製作したものと考える。

周辺の遺跡について見てみると、「国府型ナイフ形石器」の県内出土例は、倉吉市の中尾遺跡に黒曜石製のものが1例ある。岡山県中国山間部では、上斎原村の恩原遺跡から「国府型ナイフ形石器」が出土している。石材は、凝灰岩と黒曜石のものである。黒曜石は陸岐島産である。これらの石器の存在は、瀬戸内地域と山陰・中国山間部の地域とを結びつける旧石器人の恒常的・組織的つながりを想定させる。

(4) まとめ

名和小谷遺跡出土の「国府型ナイフ形石器」は攪乱土中の出土ではあるが、当遺跡周辺に旧石器人の活動の場が存在することを示している。瀬戸内地域の技術を用いて、陸岐島産の石材で製作された本資料は、旧石器人の遊動の一端を垣間見る貴重な発見となった。

(森本)

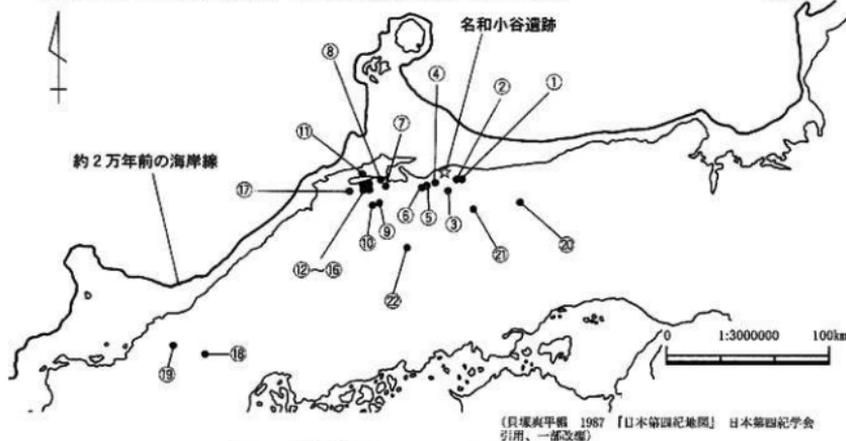


図25 山陰地方周辺のナイフ形石器出土地分布図

表16 山陰地方周辺におけるナイフ形石器出土遺跡一覧表

(☆は瀬戸内技法)

鳥	① 長谷遺跡 (倉吉市)	☆⑫ 田和山遺跡 (松江市)
☆② 中尾遺跡 (倉吉市)	⑬ 畑川遺跡 (松江市)	⑬ 出雲川遺跡 (松江市)
③ 野津三第1遺跡 (東伯耆郡金町)	⑭ 稲高1遺跡 (松江市)	☆⑮ 出雲玉作遺跡 (八東郡玉作町)
④ 妻木親山遺跡 (西伯耆郡松江町)	⑯ 出雲玉作遺跡 (八東郡玉作町)	⑯ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)
⑤ 淀江町小波小字原塚 (赤松探)	☆⑰ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)	⑰ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)
⑥ 泉中峰遺跡 (米子市)	⑱ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)	⑱ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)
⑦ 米美庵寺 (松江市)	⑲ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)	⑲ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)
⑧ 石谷遺跡 (松江市)	⑳ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)	⑳ 堀平遺跡 (八東郡穴穂町)
⑨ 空山遺跡 (松江市)	☆㉑ 恩原遺跡 (宮田郡上斎原村)	☆㉑ 恩原遺跡 (宮田郡上斎原村)
⑩ 空山西洞跡 (松江市)	☆㉒ 野原遺跡第2地点 (東郷郡八束村)	☆㉒ 野原遺跡第2地点 (東郷郡八束村)
県 ☆⑪ 古宮志平畑田遺跡 (松江市)	㉓ 野原遺跡第1早風A地点 (阿賀野郡神郷町)	㉓ 野原遺跡第1早風A地点 (阿賀野郡神郷町)

引用・参考文献

- 稲田孝司、宮澤孝志、丹羽野 裕、根鈴輝雄ほか編 1994 『瀬戸内技法とその時代』 中・四国旧石器文化談話会事務局
 稲田孝司編 1996 『思原第2遺跡』 思原遺跡発掘調査団
 伊藤徳広、丹羽野 裕編 2003 『島根県出土の旧石器時代の石器について』『古代文化研究』 鳥根県古代文化センター
 貝塚典平編 1987 『日本第四紀地図』 日本第四紀学会

3. 分銅形土製品について (図26・27、表17、巻頭図版2、図版9)

今回出土した分銅形土製品はA区(現代の土とり跡)からの出土であり、時期を確定する事はできない。しかし遺跡内出土の弥生土器が中期中葉から中期後半に集中する事から、当該期に属するものと推測できる。分銅形土製品の大半が半分以上を破損して出土する事が多い中、当遺跡で今回出土した分銅形土製品は上半と思われるほぼ2分の1が残存しており、残りは良い方だといえるであろう。今回出土した分銅形土製品の特徴は以下の通りである。

- 表面は凸状、裏面は凹状を呈する、中型品である。表表面に赤色塗彩あり。裏面には黒斑がある。
- 上縁面から裏面にかけての貫孔は左右対称に10孔ずつ穿っており、上縁部中央付近には貫孔が見られない。左右共、一番外側の貫孔は下縁部に貫通している。
- 施文は表面のみ。裏面は無文である。
- 縁辺部には櫛列点文、下縁部の櫛列点文は2列施文した後に、上から重弧文が施されている。
- くびれ部は破損のため全容はわからないが櫛列点文が一部見られる。

分銅形土製品は弥生時代中期中葉から後期中葉を中心に、集落において祭祀に使用したと考えられている遺物である。¹⁾ 町内では、弥生時代中期中葉から後期中葉の集落遺跡である茶畑六反田遺跡や、弥生時代中期中葉から中期後葉の拠点集落と考えられる茶畑山遺跡からも出土している。その分布は主に中国・四国地方を中心としていて、近年の発掘調査の増加により年々その種類も数を増している。特に岡山県ではまとまった数の出土が見られる遺跡が多くあり、その中心だと考えられる。最近では鳥取県の青谷上寺地遺跡で56点という群を抜いた数の出土があり、山陰と瀬戸内地域との交流を考える上で新しい資料を提供している。

今回出土した分銅形土製品は、周辺からの出土遺物の時期と櫛列点文の施文が用木山31や26²⁾に似ている事から、弥生時代中期後葉のものだと考えられる。「集落においての祭祀」に使用されたという考えに従うならば、近隣に当機期の集落遺跡が埋没している事が推測できるだろう。(三木)

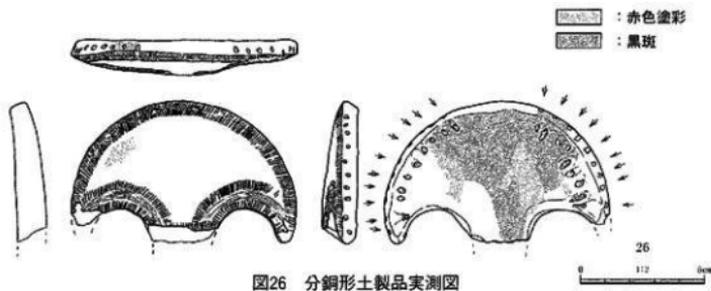


図26 分銅形土製品実測図

引用・参考文献

- 1) 東 潮 1971 「分銅形土製品の研究(1)」『古代吉備』第7集 古代吉備研究会
- 2) 東 潮 1977 「東高月遺跡群出土の分銅形土製品」『用木山遺跡』 山陽町教育委員会
- 3) 図27・表17 勝部智明・松本岩雄・守岡正明編 2000 「山陰地方分銅形土製品集成」『古代文化研究』No.8 鳥根県古代文化センターより引用、一部改編

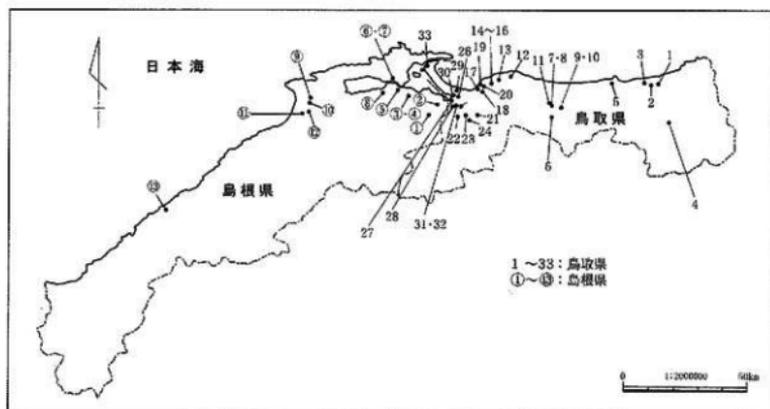


図27 山陰地方分銅形土製品出土地分布図

表17 山陰地方分銅形土製品出土地分布表

鳥根県

No	遺跡名	所在地	点数	時期
1	布勒第2	鳥根市布達	1	IV
2	藤ノ谷	鳥根市高住	1	IV
3	岩本第2	鳥根市金沢	2	IV-2~V-1
4	丸山	八頭郡船岡町船岡	1	IV
5	青谷上寺地	気高郡青谷町上寺地	56	IV~V
6	中田	倉吉市中田	1	IV
7	後中尾	倉吉市上栄積	9	III~IV
8	下小原	倉吉市上栄積	1	IV
9	中曾根	倉吉市黒見	1	III
10	ヒトグニ	倉吉市黒見	1	IV
11	阿弥大寺	倉吉市下福田	1	V-1
12	住吉	西伯郡中山町住吉	1	IV
13	名和小谷	西伯郡名和町名和	1	IV
14	茶畑第1	西伯郡名和町茶畑	2	IV
15	茶畑大反田	西伯郡名和町茶畑	2	IV
16	茶畑山道	西伯郡名和町茶畑	6	III~IV
17	大迫原	西伯郡大山町雲木	4	IV
18	新田原	西伯郡大山町荘田	1	IV
19	塚田	西伯郡大山町塚田	1	IV
20	上野第2	西伯郡大山町上野	1	IV
21	林ヶ原	西伯郡岸本町清原	3	IV
22	土井倉	西伯郡会見町浅井	1	IV
23	越歌山	西伯郡会見町歌山	2	IV
24	船田台清水	西伯郡会見町鶴田	2	IV

No	遺跡名	所在地	点数	時期
25	青木	米子市永江	1	IV-2
26	東栄後	米子市長砂町	1	IV
27	米子城21	米子市西町・加茂町	1	IV
28	新山山田	米子市新山	3	IV
29	鐘町第1	米子市鐘町	1	IV
30	日久美	米子市日久美	9	III~IV
31	古市	米子市古市	1	IV
32	橋本津原山	米子市橋本	1	IV
33	北灘	境港市外江町	1	IV

鳥根県

No	遺跡名	所在地	点数	時期
①	十番	安来市鳥木町	1	IV-2~V-1
②	大原	安来市佐久保町	1	IV-2~V-1
③	鶴賀	東出雲町出雲郡	1	IV-2~V-1
④	布田	松江府竹久町	10	IV-2~V-1
⑤	石台	松江府東津田町	1	IV-2~V-1
⑥	西川津	松江府西川津町	6	IV-2
⑦	タテチヨウ	松江府西川津町	2	IV-2
⑧	門田	松江府乃水福富	2	IV~V-1
⑨	矢野	出雲市矢野町	1	IV
⑩	白枝荒神	出雲市白枝町	4	IV-2
⑪	下古志	出雲市古志町	5	IV-2
⑫	古志本郷	出雲市古志町	6	IV-2~V-1
⑬	古八幡付近	江津市鞆川町	2	IV-2

表18 名和小谷遺跡出土遺物観察表

図	No	層位・地区	器種	法量 (cm)			色調	調整		残存率	備考	実測No	取上No
				口径	底径	器高		内	外				
19	1	I F5	深鉢	—	—	—	赤褐色			—	縄文土器	松山16	38
	2	I E5	底部	—	(8.2)	—	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	1/6	縄文土器	松山17	10
	3	表土 E5, E6, F6	鉢?	—	—	—	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	—	縄文土器	松山18	22
	4	表土	深鉢	(35.0)	—	—	にぶい褐色土	ミガキ	ミガキ	1/12	縄文土器	松山8	5
	5	I E2, E3, F3	鉢	(22.2)	—	—	浅黄色	ミガキ	ミガキ	1/12	縄文土器	松山15	58-20
	6	表土 C3, D5	甕	(18.0)	—	—	にぶい褐色	ナデ	ナデ	1/16		西村5	18
	7	3 D5	甕	(9.8)	—	—	赤褐色	ハケ	ハケ	1/8		西村4	32
	8	3 D5	甕	(15.4)	—	—	にぶい黄褐色	ハケ	ハケ	1/6		松山4	28
	9	3 D5	甕	(16.0)	—	—	にぶい黄褐色	ハケ	ハケ?	1/6		松山5	28
	10	2 D5	甕	(18.0)	—	—	にぶい黄褐色	ナデ	ハケ	1/8		松山6	49
	11	2 D5	甕	(17.0)	—	—	にぶい黄褐色	ハケ	ハケ	1/6		松山7	44
	12	I E5	甕	(28.0)	—	—	にぶい褐色	ハケ	ハケ	1/6		松山12	29
	13	攪乱 F3	甕	(20.0)	—	—	にぶい黄褐色	ハケ	ハケ	1/4		西村6	17
	14	3 D5	甕	(13.0)	—	—	浅黄褐色	ハケ	ハケ	1/6		西村3	47
	15	I E5	甕	(11.6)	—	—	にぶい褐色	ハケ	胴部下半 ケズリ	1/5		松山10	36
	16	攪乱 F3	甕	(22.0)	—	—	にぶい黄褐色	ハケ	ハケ	1/12		松山9	17
	17	2 E5	直口壺	(9.6)	—	—	浅黄色	ハケ	ハケ	1/6		西村2	45
	18	表土 CS, D5	甕	—	—	—	にぶい黄褐色	ハケ	ハケ	1/8		松山13	18-19
	19	3 D5	底部	—	(5.0)	—	にぶい黄褐色	ケズリ	ミガキ	4/5		松山3	35-47
	20	3 D5	底部	—	(5.8)	—	にぶい黄褐色	ケズリ	ミガキ	2/3		松山1	47
	21	I F5	底部	—	(6.3)	—	にぶい黄褐色	ケズリ	ミガキ	1/2		松山2	38
	22	3 D5	胴部	—	(12.0)	—	にぶい黄褐色	ケズリ	ハケ	1/4		松山11	28
	23	3 D5	口縁部	—	(13.0)	—	にぶい黄褐色	ハケ	ハケ	1/8		松山14	47
	24	表土	口縁部	(19.4)	—	—	褐色	ナデ	ナデ	1/28		西村1	19
21	25	表土 E3, E4, F3, F4	罽部?	—	(8.8)	—	褐灰色	ナデ	ナデ	1/6	キザミ	小原1	16

表19 名和小谷遺跡出土土製品観察表

図	No	層位・地区	器種	法量 (cm)			色調	調整	備考	実測No	取上No	
				最大径	孔径	最大高						
26	26	表土 E4	分銅形土製品	9.2	0.15 ~0.2	5.8	浅黄色~にぶい黄褐色	ナデ後縁辺部・くりにみ部に御列点文と並強文	ナデ	表裏赤色染	小原2	14

表20 名和小谷遺跡出土土製品観察表

図	No	層位・地区	種別	法量 (cm)				材質	備考	実測No	取上No
				最大長	最大幅	最大厚	重さ (g)				
20	S1	表土	板型石器	2.8	2.6	0.8	7.1	無珪英安山岩	縁辺にツブレ	北2	7
	S2	表土 C4	板型石器	2.6	2.4	0.9	7.7	黒曜石		北3	21
	S3	2 D5	スクレイパー	6.1	7.3	1.2	52.5	黒珪英安山岩		北4	31
	S4	3 D5	石鏃	1.58	1.6	0.28	0.4	黒曜石		小原3	33
	S5	表土 E2	敲石	10.1	6.8	4.3	415.0	黒雲母角閃石安山岩	敲打痕	西村2	20
	S6	3 D5	敲石	14.3	5.5	3.3	390.0	黒雲母角閃石安山岩	敲打痕	西村3	34
	S7	2 D5	杵石?、石皿?	30.6	14.8	7.6	610.0	安山岩	磨痕	西村4	49
	24	S8	攪乱土 E5	ナイフ形石器	7.8	2.0	1.2	13.8	黒曜石	瀬戸内技法	北1

表21 名和小谷遺跡出土鉄製品観察表

図	No	遺物種類 (名称)	層位地区	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	屈折度	メタル度	特徴	実測No	取上No

※鉄製品については、強力磁石 (TUJIMA PUP-M) と特殊金属探知機による鉄屑の抽出と、肉眼観察による考古学的な遺物の分類を行った。資料の分類、ならびに観察表の作成には穴澤義典氏にご指導賜った。

图 版

図版1 名和乙ヶ谷遺跡



1. 調査地遠景（調査前北から）



2. 調査地遠景（調査後東から）



1. 調査地遠景 (調査後南から)



2. 調査地完掘状況全景 (東から)

図版3 名和乙ヶ谷遺跡



1. 道1および2埋没状況1
(西から)



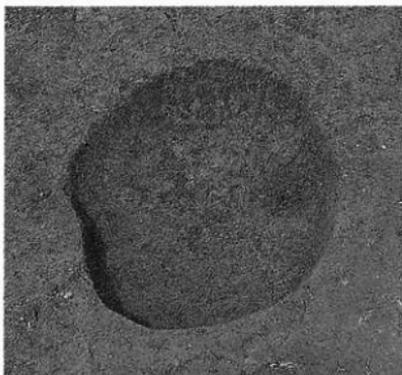
2. 道1および2埋没状況2
(西から)



3. 道2完掘状況
(西から)



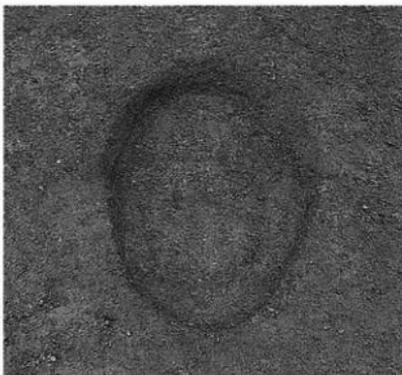
1. 溝1完掘状況
(西から)



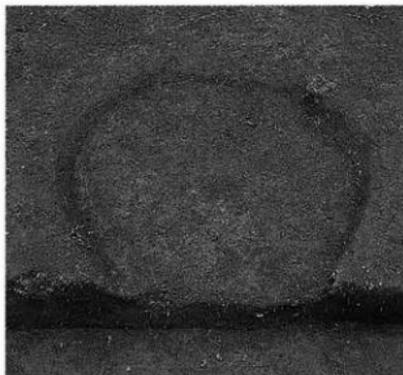
2. 土坑13完掘状況(南から)



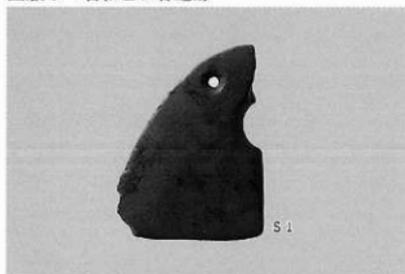
3. 土坑14完掘状況(北から)



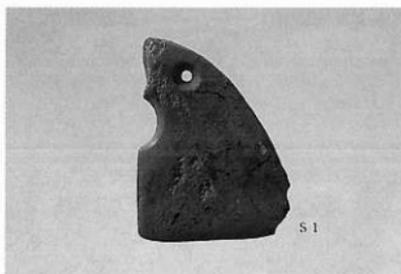
4. 土坑15完掘状況(北から)



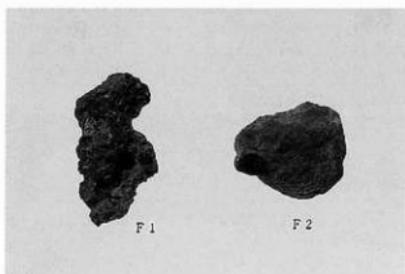
5. 土坑16完掘状況(北から)



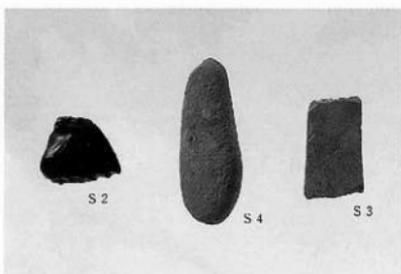
1. 球状耳飾(表)



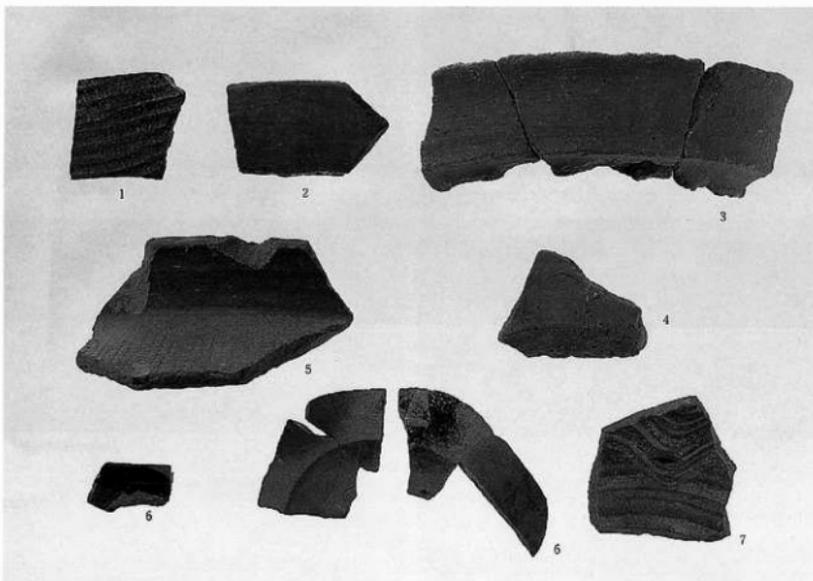
2. 球状耳飾(裏)



3. 調査地内出土碗形鍛治滓



4. 出土石器



5. 出土土器・陶器



1. 調査地周辺の地形（北から）

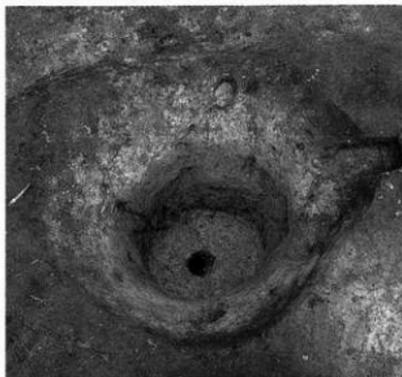


2. 調査地全景（南西から）

圖版 7 名和小谷遺跡



1. 土坑1



2. 土坑2



3. 土坑1 土層断面



4. 土坑2 土層断面



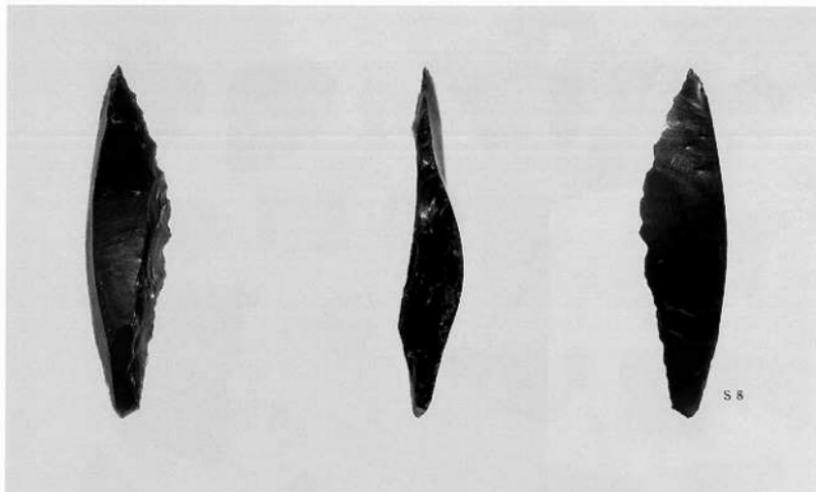
5. 土坑6



6. 土坑7



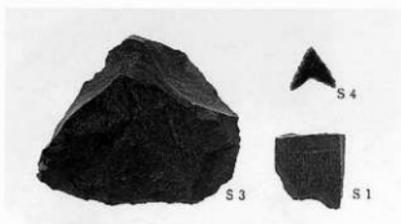
調査地内出土遺物 (1)



1. ナイフ形石器



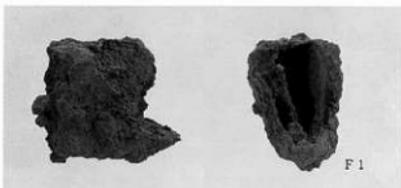
2. 調査地内出土遺物 (2)



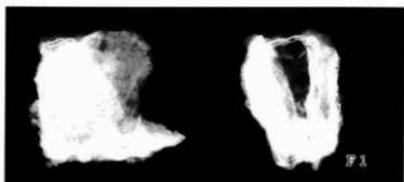
4. 出土石器



3. 分銅形土製品



5. 出土鉄製品



6. 出土鉄製品 (X線)

報告書抄録

ふりがな	なわおとがたにいせき なわこだにいせき							
書名	名和乙ヶ谷遺跡 名和小谷遺跡							
副書名	一般国道9号(名和淀江道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	Ⅷ							
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書							
シリーズ番号	95							
編著者名	北 浩明 日置 智 小林 桃子 森本 倫弘 三木 雅子							
編集機関	財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒680-0151 鳥取県岩美郡関府町宮下1260							
発行年月日	西暦2004年(平成16年)3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
名和乙ヶ谷遺跡	鳥取県西伯郡名和町大字名和字乙ヶ谷1173-11ほか	31387	306	35度 29分 51秒	133度 30分 13秒	20030430 ～ 20030603	680㎡	一般国道9号 (名和淀江道路) 改築工事
名和小谷遺跡	鳥取県西伯郡名和町大字名和小谷897-3ほか	31387	312	35度 30分 04秒	133度 30分 23秒	20030501 ～ 20030630	4962㎡	一般国道9号 (名和淀江道路) 改築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
名和乙ヶ谷遺跡	遺物 包含地	縄文時代 弥生時代	—	珠状耳飾、 縄文土器、 弥生土器		—		
	集落	平安時代	道路状遺構、溝、 土坑	須恵器、鉄滓		—		
	集落	近世	—	陶器		—		
名和小谷遺跡	遺物 包含地	後期旧石器時代	—	黒曜石製ナイフ形 石器		瀬戸内技法		
	遺物 包含地	縄文時代	—	縄文土器、石器		—		
	遺物 包含地	弥生時代中期	—	弥生土器、石器、 分銅形土製品		—		

鳥取県教育文化財団調査報告書95

一般国道9号（名和淀江道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ

鳥取県西伯郡名和町

なわおとがたにいせき
名和乙ヶ谷遺跡

なわこだにいせき
名和小谷遺跡

発行 2004年 3月 31日

編集 財団法人 鳥取県教育文化財団

埋蔵文化財センター

〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1260

電話 (0857) 27-6717

発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団

印刷 中央印刷株式会社